



まちづくりについて
講演する伊藤教授

地域の資源、どう活用

東京理科大・伊藤教授が基調講演

大館でシンポ 市民らと方策探る

地域の歴史や文化、景観を「らぎ事業」を紹介。中心市街地にかしたまちづくりについて考えるシンポジウムが4日、大館市の秋田職業能力開発短期大学校で開かれた。東京理科大創域理工学部の伊藤香織教授の基調講演などを通じ、市民ら約90人が地域資源を活用する方策を探った。

伊藤教授は2006年から「シビックプライド」(市民が街に対して持つ愛着や誇り)に関する研究会を主宰している。この日は「シビックプライドのあるまちづくり」歴史を受け取り未来を拓く」と題して講演した。

伊藤教授は他県の事例として、静岡県三島市の市民が主導して企画した「街中がせせ

らぎ事業」を紹介。中心市街地にある水辺や緑地などの資源を活用して回遊ルートを整備するもので、「水に接していること自体が街の文化になってきた。文化として浸透することで、隅々からその街らしさが発信されるようになっていった」と語った。

パネルディスカッションも行われ、NPO法人大館学び大学の石山拓真代表、コミュニティFM「FMラジオおおだて」の小山明子代表らがシビックプライドをテーマに意見を交わした。

シンポジウムは市の主催で5回目。市の「歴史的風致維持向上計画」が17年に国の認定を受けたことを機に、市民

が地域への誇りや自信について考えるきっかけにもなっており、おうち開催している。
(間杉大旗)